

天狗滝



黒山三滝の歴史

くろやまさんたき

黒山周辺は、室町時代に山岳宗教修験道の拠点として開かれ、黒山三滝は修験道場として広く信仰を集めました。幕末に越生町出身の尾張屋三平によって江戸に紹介され、明治時代には多くの観光客が訪れる観光地として知られるようになりました。

昭和25年に新日本観光地百選瀑布の部において9位に選ばれた景勝地であり、翌年には黒山三滝を中心とする広い地域が県立黒山自然公園に認定されました。

「春は新緑・夏は清涼・秋は紅葉・冬は雪景色」と一年を通して様々な表情を見せ、訪れる人を飽きさせません。



毎年7月に行われる滝開きの儀

男滝・女滝



黒山三滝とは

上下二段の男滝(おだき)、女滝(めたき)と、やや下流の天狗滝の3つの総称です。

ノスタルジックな 雰囲気

多くの観光客で賑わう黒山三滝周辺では、様々なおもてなしの心が息づいています。なつかしのレトロなお土産屋、マスやイワナが釣れる釣り堀、合掌造りの店内で鹿や猪鍋などのジビエが楽しめるお食事処など、四季が織りなす山の魅力とともにゆっくり散策を楽しめます。



「飛騨観光 陽山亭」猪鍋



四季折々の自然

祈り継がれた、聖なる場

黒山三滝

日本では古くから、山岳を神霊が降り立つ聖地として崇めてきました。

祈り継がれてきた黒山三滝の厳かな佇まいに

私たちはパワーを授かり、

祈りの心をつないでいきます。



おおひらさん えんのぎょうじや 大平山の役行者像

山々を見守る、修験道の開祖

黒山三滝からほど近いところに、日本の山岳宗教である修験道の開祖として崇拝されてきた、役行者の巨大な石像が鎮座しています。役行者には数多くの伝説が残されており、人に災いをもたらしていた前鬼・後鬼を改心させ従わせたという伝承から、この石像も二匹の鬼を従えています。